様式第一の第九表を次のように改める。

第9表

乖離率計算書

1　乖離率（補正前）

項　目	値	備考
想定原価（百万円）（①）		
想定需要量（百万kWh）（②）		
想定単価（円/kWh）（③＝①/②）		
実績費用（百万円）（④）		
実績需要量（百万kWh）（⑤）		
実績単価（円/kWh）（⑥＝④/⑤）		
乖離率（%）（（⑥/③－１）×100）		

想定原価及び想定需要量は、　　年　　月から　　年　　月までの　　年の合計とした。

実績費用及び実績需要量は、　　年　　月から　　年　　月までの　　年の合計とした。

（記載注意）

1　想定原価は、託送供給等約款の料金を設定した際に整理された送配電関連原価の合計額とすること。

2　想定需要量は、託送供給等約款の料金を設定した際に整理された送配電関連需要の量とすること。

3　実績費用は、実際に発生した費用の額とすること。

4　実績需要量は、実際に発生した需要の量とすること。

5　想定原価及び想定需要量は、原価算定期間の合計を記載すること。

6　実績費用及び実績需要量は、原価算定期間の年数に対応した直近の事業年度の合計を記載すること。

2　乖離率（補正後）

項　目	値	備考
補正後実績費用（百万円）（⑦）		
補正後実績需要量（百万kWh）（⑧）		
補正後実績単価（円/kWh）（⑨＝⑦/⑧）		
補正後乖離率（%）（（⑨/③－１）×100）		

（記載注意）

1　補正後実績費用は、実績費用をもとに、需要の補正に伴い変動した販売電力量のみによって変動する費用を補正する額とすることとし、かつ、補正を行った費用項目を脚注として記載すること。

2　補正後実績需要量は、実績需要量をもとに原則気温により変動した量を補正した需要の量とすることとし、かつ、補正後実績需要量の算定根拠を脚注として記載すること。